



內外新報

第三十四號



定價

西垣文庫

文庫 10

7352

18



特文庫10
7352
18

西垣文庫

內外新報第三十四號

慶應四年五月十二日



○仙臺系以古蹟より其洞の諸侯一達以善報
以手紙致し陸奥守孫正大弼系會津客保津延付
之先陣也 以付陸奥守孫正大弼系會津客保津延付
陣門の相越し降伏謝罪之旨致し申出以之付津衆評定
會津同津軍段之内白石陣所より津出張相成以標榜
登以以上

同日月日

上杉孫正大弼家老
竹俣養化

千坂右衛左衛門

伴達陸奥守家老

但求土佐

切 英力

○ 鎮撫府参謀公署城平藩への濟達書四通

奥州平藩

右先尊と惣督府とを涉り相成り付合致撥人取立
る十日中に白川迄下差懸り奉

但近地江対相高し人取立差出を至用し者て或は
相者き強装以て出張了有る事

同日月七日

鎮撫府

参謀

○ 同日十五日

平藩

右今日上里舍境に悉入甲子道在廻番付罷了致事
但求小隊宛出張事

○ 同日十六日

平藩

右今日上里白川宿奥州入口警備了致事
但求砲臺門備付事

○同十九日

平藩

右之波口出張人数一先引兵以極申付以於白川
人之付急進出張有之

○奥州上里出府之者吐し

一 同月上旬に以薩州取多人殺害但仙臺寒風サツ以港へ入
津世里初合之艘紫ぎ所へ薩長籠之藩の人殺る受く
上陸し紀藩相跡に船當り多し

一 九条殿下是迄容賢堂へ侍在り同月中旬新侍
殿江引福と相成り先上方勢を人由附添参り仙臺人

殺りて警備せしむ

同月中旬に仙臺以て沃之位殿上里兼以て重役侍
出り以て討會之義に侍侍比相成周之沃殿並様
上方勢引率以て兼沃口へ侍出陣し兼沃より役
人召出令殺討會に侍侍比以て由一併討會
に付故に以て警備一日疑惑仕り兼沃口を以て方人殺
以て相固り以て人殺願内へ侍入以て不及中
有相連以て之等有之右に侍沃殿並り天童に侍入り
のし

十日五日の以薩極使醍醐少将殿白川に侍入城

十七日以仙臺南新軍勢白川と引たり以仙臺營の白
石を退陣す

○後四月廿三日出磐城の來帖

去る十六日甲子道行作として相越泰謀方附勝見若太
史附法會藩臺場よりを出張し索俄又大砲打出せ
り史より内路志名子村と十所又會津見張所有之石
場本以之双方院殿又相成む泰謀兵果之史怪我人等
卒之夜日入内陣す

同十九日辰九ツ時以之妻藩より使者を以て會藩世人
徑柏村白川里半程を出張し史中越し以舟即打白川城

へ存出泰謀方付へ相叱し以史つゞきも打掛ひ以極
紅十圓勿倫苗時會藩降伏歎服申の義之付押案以義
川有之乃安と泰謀附紅中より

五妻藩三百人從 會津中蔵入甲子道

二本松藩百人從 江戸口

畠山藩四十人從 石門口

平藩八十人從 妻妙入口

白川城中二本松、柳倉、泉、兵、薩長、籠、人、殺、臥、下、人
係、以、之、相、圍、也

同廿四日曉六ツ時會津營に史以て甲子乃圍門之妻城

へ付かへる時討戦事城中へ参謀を人馬引く駈
 付指揮以多し以ゆぐも遂に敗走し及び又より平勢
 の関門口掛里に参謀又敗れ寄手速振城中に目かけ
 表裏しを参謀并に津代官表裏三命の免事と口こ
 以呼ちをあがく鎗刀以く切也以く中津代官の何故
 の悪し以や相分り果中津殿より上を砲發防禦以
 多しゆぐも短兵急に攻浩以ゆぐ思て空を打越し
 以のそゆぐを人の中里以者多し其内城中六ヶ所へ
 放火し大勢憐人^{ヤカ}の相見へ以是の事秋より同謀^{ヨリ}思ひ
 以居に申遂に落城し相成り参謀以下少段の事

由仙臺に退去し執旗使を以方相分りゆぐと説く
 津府より平藩屯所より水小隊繰出し持城固め以を
 取く参謀付仙臺藩忌崎健次と十者存出参謀等皆
 く敵方六七人木産より發砲し戦事及びゆぐも
 怪我人少く退く参謀付あり其後來り指揮以多し其
 内人救引揚八里程退き小平村へ一泊次二日陣せ
 其長層参謀世良修徳の戦事の一由日仙臺へ引返
 去り参謀某戦事し御會人と組付有る最利統戰以く
 参謀殿を打たる會人府を承負ひ速く引組以多し人
 の参謀より成見付るゆぐ來り其に會人を切殺し以

中備萬素上を付合く念争く也人あ一時は淡敷し且
 双方強丸多く打上け死傷多文に争くとの事也
 以の事々々引拂ひ滅中々人由居合せは念勢三也而
 人以之市中見出る難焼場不元志分あ中中は日刻相倉
 落滅し中是の宮軍の跡兵逃移る以之付合屬より攻
 向ひ以即之場は事なし

